

私の環境学 ～自生的都市空間「城中村」～

川井 操

環境建築デザイン学科

私は、本学環境科学研究科博士後期課程在籍中(2007年4月～2010年3月)において、中国・西安旧城内にある回族(中国でイスラームを信仰する少数民族)居住地区の研究をおこなってきた。ここでは、モスク=清真寺を中心とする血縁関係による強固なコミュニティや地区内商売の繁栄によって、再開発を避けた独立的で猥雑な地区状況を生んでいったことを明らかにしたⁱ。

その後、2011年1月から2013年1月までの2年間、北京新領域創成城市建築設計公司以都市計画、研究、建築設計に携わった。北京の都市空間に関する率直な印象は、区画整備や開発されたビル群、拡張された道路、環状線や高速道路によって切断された街区等、都市そのものが集合密接なものより散漫な印象を感じた。

そこで、北京で働く建築関係者を集めて、定期的にあジアの都市空間に関わる研究会を始めた。その中で、近代都市計画を痛烈に批判したジェイン・ジェイコブス『アメリカ大都市の死と生』ⁱⁱの読書会をおこなった。ジェイコブスは、本書の中で、都市の多様性を生み出す要素として、以下の4つを挙げた。

1. 地区や内部の出来るだけ多くの部分が、二つ以上の主要機能を果たさなくてはいけない、
2. 小さな街区の必要性、
3. 古さや条件が異なる各種の建物の混在、異なる経済収益、規模の近似、
4. 十分な密度、である。この視点を基にして、北京に潜む都市空間の魅力を探ることとなった。



写真1:「城中村」の街路空間

「城中村」との出会い

「城中村」とは、「都市の中の村」を意味する。中国語で「城」は「都市」と翻訳される。1978年改革開放以来、急激な都市化が進行し、都市部周辺の農地が急速に収用され市街地となる過程で、農民の住む居住地区が開発されないまま残されたのが「城中村」である。

ある日、三里屯(若者向けのショッピングストリート街)に買い物に出かけようと自転車を走らせた。途中、トタン塀で囲われた街区に衝突した。しかたなく自転車を降りて街区の路地に入っていった。

その場所に、北京の都市空間とは異なる違和感、そして親近感を覚えた。街路空間には、商店の品物がはみ出しており、人通りも多く、建物の増改築も激しい。商店は、生活用品や携帯電話アクセサリショップ、大工道具、偽DVDショップ、時計販売修理、床屋、飲食店、果物店等、生活や職人仕事に密接した商店が多い。

不法地帯のおもむきもあるが、路地では住民同士の親しげな会話が弾んでおり、子供達が路地奥から元気に出てきて遊んでいた。

後日、夜間の様子も知るべく、仕事帰りに再び訪れた。時刻は夜十一時過ぎ、商店や食堂は閉まる気配がなく、日中と同様に活気づいていた。また、商店間にある袋小路の前には派手目の服装で着飾った女性達が列をなしており、度々声を掛けてきた。風俗規制の厳しい北京でこういった光景は極めて珍しいことだ。さらに、低層住宅の続く薄暗い奥まったところまで入ると、地域住民とは違う出で立ちの



写真1:高層マンション・ビルに囲まれた「城中村」

人々の往来が見受けられた。ここでは、一街区の中でも、時間帯、地点によって多様な地区の表情があり、地元民と外来民が混住した地区であることがわかってきた。まさに、これこそ都市の中の村「城中村」であったのだ。

「城中村」の発生原理

では、なぜこのような「城中村」が発生・生息するのか？

その大きな要因として、中国の複雑な土地所有制度が絡んでいる。所有制度は大きくは国家所有権と集団所有権の二元化制度である。この所有権について、簡潔に言うと、国家所有権の主体は国家に委ねられ、集団所有権は農村地区の集団にある。都市化のプロセスで、政府が農村から土地を買い上げず、既存の集団土地所有権が残されたⁱⁱⁱ。彼らは農村からの流動人口の受け皿として、既存の住宅の増改築をおこない、賃貸アパートとして貸し出す（中国では「瓦片経済」と呼ばれる）。利権を持ち始めた地権者は、簡単には立ち退かないし、政府ないしはディベロッパー側が城中村民全体の住まい提供や立ち退き料の保証金額は莫大なものになる。こうして「城中村」は土地制度や利権構造によって、新規開発から取り残されたまま、都市の中心部ないしは都市と農村の境界線（城郷鎮）に発生する。1949年以降に成立した社会主義時代の土地二元構造、1978年の改革開放以降の市場原理が複雑に絡み合い、「城中村」の発生要因となった。

環境学としての「城中村」

「城中村」は、グローバル市場の生み出した深刻なスラム地区として語られる。マイク・デイヴィス『スラムの惑星』^{iv}では爆発的な都市人口の大きな要因として都市への流動人口を述べており、スラムを近未来都市の最も深刻な問題・巨大勢力としている。

一方、「城中村」はジェイン・ジェイコブスのいう都市の多様性を生み出す要素が見事に具現化された空間であった。複雑な要素が幾重にも折り重なってある自生的な環境を作り出していた。まずは、その複雑に絡み合った環境構成要素を解きほぐす作業とその発展型を提示することに私の環境学があると

考える。そして、「城中村」はグローバル市場に汚染され続ける現代都市へのアンチテーゼになると考える。

i 川井操『西安旧城・回教居住地区の空間構成とその変容に関する研究』滋賀県立大学大学院環境科学研究科博士論文（2010.6）

ii ジェイン・ジェイコブス著、山形浩生訳『アメリカ大都市の死と生』（"The Death and life of great American Cities" 1971）鹿島出版会（2010）

iii 符衛民『中国の土地所有制度』『社会文化科学研究第12号』pp99-108(2005)

iv マイク・デイヴィス著、酒井隆史監訳、篠原雅武・丸山里美訳『スラムの惑星—都市貧困のグローバル化』明石書店（2010.5）